

〔本草和名十蟲魚〕文蛤表有文蛤出兼和名以多也。加比。

〔倭名類聚抄十九龜貝〕文蛤新抄本草云文蛤和名伊太表有文者也。

〔變注倭名類聚抄龜貝八〕按伊太夜加比今俗呼阿左利者蓋文理縱橫如以板葺屋狀故曰板屋賀比。

文理縱橫有沙不滑故今俗呼阿左利猶呼礫爲沙利也即清俗所謂蛤仔是也是物斑文美於波万具利故輔仁以文蛤充之然文蛤卽波万具利非阿左利也。○中所引本草和名蟲魚類文據千金翼方證類本草文蛤表有文五字是本條文源君併爲出新抄本草非是陶弘景云文蛤大小而有紫斑蘇敬曰文蛤大者圓三寸小者圓五六分若今婦人以置燕脂者

〔類聚名義抄虫〕文蛤イタヤカセ

〔醫心方一諸藥和名〕文蛤和名以多也加比

〔東雅鱗介十九〕海蛤ウムギ略○中倭名鈔に新抄本草を引て文蛤表有文者和名はイタヤカヒと註したるこれも又然るべからず文蛤は筆談○沈括に見えし所のもの即今のハマグリ也、イタヤガヒといふものは霏雪錄に海中有甲物如扇其文如瓦屋唯三月三日潮盡乃出名海扇と見えしもの車渠は此物の大なるをいふなり東壁が本草に車渠海中大貝也背上龍文如車輪之渠故にかく名づけしといふ是也即今もイタヤガヒといひまた俗にホタテガヒともシヤクシガヒともいふなり○中すべて其形の摺扇を開きしに似たれば海扇とはいひしなるべし然るを文蛤をもつて此物となしぬるはその文の字を誤り解して溝文の文となせしと見えたり

〔本朝食鑑十〕帆立蛤伊多良加比

釋名蛤殼如望遠帆之開故通俗名之又稱伊多良是訛伊

集解帆立者海中之大蛤也大者長五六寸至一二尺濶二三分至一二寸殼外溝壘如蚌殼而深大黃白色又有交紅斑者其肉最白然味不佳海俗亦不食之海西諸州最多海人采殼賣